

令和元年11月13日 11時30分
福岡市保健福祉局保健予防課（担当：山西，谷口）
TEL 711-4270 内線2061

結核集団感染事例について

1 概要

市内保健所に肺結核患者の届出があり、患者と接触のあった市内の勤務先等を対象に接触者健康診断を実施し、これまでに結核患者4名、感染者12名が確認されました。このうち、検査により初発患者と肺結核患者2名の結核菌遺伝子型が一致したことにより、厚生労働省が定める結核集団感染事例として、厚生労働省に報告しましたのでお知らせします。

2 経緯

- 初発患者（50代，男性）は，平成30年4月から咳症状があり，A医療機関を受診し，処方薬を内服。その後，症状が良くなることもあった。平成30年8月に咳症状が激しくなり，9月3日にB医療機関を受診し肺結核が疑われ，9月4日にC医療機関を受診，入院となり，市内保健所に肺結核患者の届出があった。
- 平成30年9月から実施した接触者健康診断等により，令和元年11月現在，結核患者3名と感染者12名が確認された。
- 結核患者の概要
現時点で，初発患者を含め患者4名，感染者12名。

■接触者健康診断の結果

区分	接触者健康診断実施者数	受診結果	
		結核患者	感染者
家族	4	0	1
勤務先	118	3	11
その他	4	0	0
合計	126	3	12

- 検査可能な2名の結核菌の遺伝子型別検査を実施したところ，初発患者と2名とも結核菌の遺伝子型が一致した。

3 結核患者の概要

	年代	性別	転帰
患者①（初発患者）	50代	男性	治療終了し経過観察中
患者②（接触者）	70代	男性	入院治療中（結核以外の疾患）
患者③（接触者）	70代	男性	通院治療中
患者④（接触者）	80代	女性	通院治療中

4 今後の対応

接触者に対しては今後も計画的に接触者健康診断を実施する予定。
内服治療中の方に対しては，服薬継続が確実に進むよう支援を行う。

今回の情報提供は、市民への結核に関する啓発を促すために行うものであることから、報道にあたっては、患者等のプライバシー保護にご配慮をお願いします。

※ 結核の集団感染とは

同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいい、発病者1人を6人の感染者に相当するとして感染者数を計算。

参考

1 結核とは

結核は、現在でも国内で1年間に約1万6千人の患者が新たに発病している病気です。

福岡市では、平成30年に新たに結核を発病した方（新登録患者）は165人で、新登録患者数は近年概ね減少傾向にあります。人口10万対結核罹患率は、10.4です（全国12.3）。

結核の特徴は以下のとおりです。2週間以上長引く咳や痰など気になる症状がある場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

【結核の特徴】

原因（病原体）：結核菌

感染経路：結核は、たんの中に「結核菌」が出ている患者さんの、せきやくしゃみで飛び散ったしぶきを吸い込むことにより感染します。

感染と発病：「感染」＝「発病」ではありません。

結核菌が病巣をつくり、その中で増え始めると「結核を発病」した状態になりますが、感染した人がすべて発病するわけではありません。

結核の感染者のうち発病する人は、約1割といわれ、発病する場合は感染後6カ月頃から2年以内のことが多いといわれています。また、他の病気や加齢等により身体の抵抗力が低下したときにも発病しますので、数十年経って発病することもあります。

発病した場合の症状：初期の症状は風邪とよく似ているので、見逃されることがよくあります。

せきやたんが2週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診することが重要です。

治療方法：現在、結核によく効く薬（抗結核薬）が開発され、3～4種類の薬を6～12か月確実に服薬すれば治すことができる病気になりました。ただし、薬剤の選択が不適切であったり、途中で内服をやめてしまったり、飲み忘れたりすると薬が効かない「耐性菌」を生み出し、治療できる薬が少なくなり、手術や長期の入院・治療が必要になることもありますので、確実な内服治療が重要です。

なお、他者へ感染させる可能性がある状態（たんの中に結核菌が出ている状態）の場合は、入院治療が必要です。

2 福岡市内における結核患者の発生状況

新登録患者数及び罹患率（人口10万対）

区分		平成5年	平成15年	平成25年	平成30年
全国	新登録者数	47,437	31,638	20,495	15,590
	罹患率	38.0	24.8	16.1	12.3
福岡市	新登録者数	484	320	226	165
	罹患率	38.5	23.2	15.0	10.4

3 福岡市内における結核集団感染の発生状況

過去3年の集団感染事例（福岡市）

公表日	場所	患者数等（初発患者を含む）
平成29年1月	日本語教育機関	結核患者6名，感染者3名
平成29年11月	日本語教育機関	結核患者4名，感染者7名
平成31年3月	日本語教育機関	結核患者19名，感染者7名